



愛知県保護者会たより

平成28年度愛知県保護者会第23回定期総会開催!

文責 2年生副会長 山岡 洋海
写真 監査(4年) 大杉 茂

平成28年5月28日(土)名古屋国際センター5F第一会議室に於いて、日本体育大学愛知県保護者会会則に基づき、「平成28年度第23回定期総会」が開催されました。

定期総会には保護者48名の他、ご来賓として本部保護者会より貝塚昌通副会長、荒川喜峰北信越東海ブロック代議員、大学より小川理郎教授と学生支援センター健志台事務室 石川優志様、学校法人日本体育大学より尾関庸一事務長、愛知県同窓会より川原三男



総会の様子

副会長、藤原照明理事長及び河合朝晴就職対策委員会キャリアアドバイザー、日体大ファンクラブ愛知の会より得能一美会長、山口 博副会長、加藤博志顧問、今泉弥代元代議員、大見 学前代議員、及び加藤和美様、前川京子様にご出席いただきました。



ご来賓の皆様

総会は議案書に沿って議事進行が行われ、平成28年度新会長等の役員改選まで無事承認を得ることができ、今年度の新たな体制が整うこととなりました。記念講演会では小川教授による講演が開催されました。健志台事務室の石川様による「学生生活において」、愛知県同窓会の藤原理事長、河合講師による「地元就職対策の具体的な取組」をお話しして頂きました、保護者の皆様にも近年の就職状況、目指す職業への早々の就活対策のありかたを確認していただき刺激を受け参考となりました。

総会閉会後は、25Fの東天紅にて懇親会が開催され、講演をいただいた大学関係者、愛知県同窓会及び保護者の皆様の他に、ファンクラブ愛知の会の皆様を交え、日体大の話題、ご子息・ご息女等の近況のお話で大変盛り上がりしました。会食時には新入学された保護者の皆様、ファンクラブ愛知の会の皆様、在学保護者の方々にも一言コメントを頂き大学生活・部活動等の情報交換などして大変、有意義な時間を過ごしました。



残念ながら今回ご出席頂けなかった保護者の方々も次回の総会には是非ご出席して頂き大学、同窓会からの情報を聞く機会を得て頂くと共に懇親を深め子供達の将来のため役立てて頂ければ幸いと存じます。

今後とも、愛知保護者会へのご理解ご協力を宜しくお願い致します。今年度も色々な行事を計画しておりますので多数のご参加の程、宜しくお願い致します。



総会閉会後の記念撮影

平成28年度 愛知県保護者会 新役員 (敬省略)

役職名	氏名	学年
会長	深見 和義	4年生
3年生副会長	石井 勝	3年生
2年生副会長	山岡 洋海	2年生
1年生副会長	永田 敦士	1年生
書記	加藤 美佐	2年生
書記	酒井由美子	1年生
会計	彦坂 章代	2年生
会計	安藤 郁美	1年生
監査	大杉 茂	4年生
監査	山田 泰弘	3年生
幹事	山岡みさよ	2年生
幹事	中村 貴文	1年生

顧問	本多 整	
北信越東海ブロック代議員	荒川 喜峰	3年生



定期総会 記念講演会

3年生副会長 石井 勝

「平成28年度日本体育大学愛知県保護者会 第23回定期総会 記念講演会概要」

講師 日本体育大学 保健医療学部 救急医療学科 教授 小川 理郎様

本年度の、定期総会記念講演会の講師は、保健医療学部 救急医療学科の小川理郎教授をお招きいたしました。小川教授は、日本医科大学大学院医学研究科（救急救命）を卒業された医学博士で救急外科医であり日本救急医学会指導医という、経歴を持たれる救急医療分野の重鎮です。ご承知の通り、保健医療学部が開設されて3年目ではありますが、このようなエキスパートの先生の下で学べる環境と学生たちの救急医療への志が初出場でありながら「学生メディカルラリー2016」において、総合1位となり着実に結果へと結びついていると感じました。



保健医療学部 救急医療学科 小川理郎教授

日々多忙な小川教授が愛知県の総会にお越しいただいたのは初めてで、ギリギリまで講演の資料を作成される姿は、最後まで諦めない救急救命の姿勢が表れていたようにも思いました。名古屋までお越しいただいたことに、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

講演では、自己紹介、指導者エピソード、大学の近況、学生と保護者への提言とさまざまなお話しをしていただきました。

(以下 小川教授)

私はおそらく特殊な救命医で現在も日本医大の医局員です。

救急救命医はオーケストラに例えるならば、あらゆる楽器がこなせる指揮者と言えます。救急救命医療には厚生労働省も以前、提言していますが3つ柱があります。

- ① MC(メディカルコントロール)病院前の医療救護、災害医療なども最近注目を浴びています。さらに救急隊員、救急救命士の現場での指導を医師が行う「ON」と救急隊員の教育「OFF」があり、今の日体大の学科は教育という部分においてこのMCの中に入っています。
- ② ER(イマージェンシールーム) 熱傷から心筋梗塞などあらゆる疾患に対応します。
- ③ ICU(インテンシヴ ケア ユニット)集中治療という重症患者を診る領域。



この3つの分野が正しくできる人が、本当の救急救命医なのですが、できる人がどんどん減っていてその背景にトレーニングが非常に大変であることがあげられます。



[記念講演会の様子](#)

私は、生死のギリギリの方々を ICU の治療室に年間 260～280 日ぐらい 10 年間勤務を続けている生活をしていました。何故このようになったかと言うと、私は早くに父親を亡くし大変苦学して大学を卒業しました。広島出身なのですが、親戚一同を全て原爆で亡くしてしまい、偶然にも、父と母は岡山県でキノコ雲を見たことにより私が今生きていることとなります。大学を卒業するときに「一番医学の中で厳しい所に行きなさい」と言われ当時、日本医大救急救命は3カ月もたないといわれていた現場に自分だけが頼りだと思い進むことになりました。こ

のような状況から救急救命を選んだともいえます。「私には振り返るバックがない、これしかない」との思いで救急救命の仕事をやってきました。様々な救急救命の現場に携わってきました。そういった中で今、私が取り組んでいるのが“突然死”をいかに防ぐか？です。このことは誰にでも起きうることです。人間はある条件が揃うと、簡単に命がなくなります。どんなに医師が優秀になっても救急救命士がいなくなったら病院は支えられません。このことから、私は東京消防庁の消防学校専任教師を8年勤めました。この経験から日本のあらゆる所に教え子がいます。また、海上保安庁で救急救命の特殊任務にもつきました。このような経歴を経て日体大に来ました。

学生教育の話に移ります。私はシュヴァイツァーに感銘を受けまして、その中で医療人に求める 3S があります。①サーブ ②ステディ ③スタディという言葉がありますが、更に「本当に幸福になるのには人に奉仕する道を求めてそれを見出すこと」と言っています。このことを私は学生たちに教えています。また日体大がなぜ他の大学と違うのかを強調もしています、日体大は本当の救急指導員がきちんと教えていることや日本医大との提携が強いことを挙げています。更に人間力を徹底的に鍛えます。「傷病者の人権と尊厳が何より大切である」と学生に言い



[記念講演会の様子](#)

ながら、奉仕の精神を徹底して学生に伝えています。さらにプロフェッショナルとは何かとも明確にしています。それは社会的ニーズと公共の善のために尽くすことと学生によく言っています。新入生には、SNS を活用して即、友達を作りなさいと接しています。何故かと言うと、“情報”ということが非常に大切だからです。例えば地方から来られた人などは、一人な場合がありますので色々な情報は、友達同士や先輩とのかかわりの中で交換できる環境を整えるように言っています。昨年、救急サークルも作りました。また2年生から医者の学会に参加させています。3月には発表する学生が出て業績を挙げています。様々な研修活動経験から今、日体大災害派遣チームを構築中で、箱根駅伝にも送り込みたいと考えています。昨年は、実演会である方が心肺停止になってしまいましたが、自分たち救護班が蘇生することができました。一度心臓が止まってしまうと完全蘇生率は3%と言われる中で素晴らしい活躍ができたと思っています。

今年、シアトルのハーバービューメディカルセンターにて研修を実現することができました。シアトルは世界的に救急のトップと言われ、あらゆる国から研修依頼がある世界で注目される所です。大学生が本場シアトルの救急車に乗って研修できたことは日本では初めてです。直接教育を受けることができた学生にとって素晴らしい7日間でありました。ただ私が一つ残念なことが、この研修には12名しか受け入れてもらえなかった



ことです。全員連れて行くことができなく、非常に辛かったです。5月には熊本県益城町に学生と行きました。現地で指導や徹底的にカンファレンスを行い質の高い活動が非常に評価されて、今災害ボランティアのチームを作り第2陣を計画しています。

救急医療の学科では将来、あらゆる施設で実践的に医療ができる人を養成した研究者も大学で育てていきたいと考えています。そして平成30年に大学院の構想がスタートしました。



今日は両親の皆様をお願いしたいことがあります。私は、今までの仕事の経験の中から不慮の事故での両親の号泣を何度も見ました。この経験で私は、4歳までは肌を離さず、9歳までは手を離さず、18歳までは目を離さず、22歳までは心を離さず、このことが、家庭崩壊に繋がる不慮の事故が防げると信じています、そして褒めることを忘れないで子供の心を癒してあげてください。最後に子供に伝えたいことは善意解釈のできる人間に

なってほしいということです。ご清聴ありがとうございました。

以上が、小川教授の記念講演の概要です。講演後の質疑・応答にも丁寧に対応していただき、誠に有難うございました。

また講演会第2部として、学生支援センター健志台事務室の石川優志様から学生生活について（キャリア支援・成績表の見方等）、愛知県同窓会理事長の藤原照明様と就職対策委員会キャリアアドバイザーの河合朝晴講師のお二人から地元就職の現状と具体的取組についてお話しをいただきました。限られた時間の中で、熱いメッセージをそれぞれいただくことができましたことに感謝申し上げます。



愛知県同窓会 藤原照明理事長



学生支援センター 石川優志様



愛知県同窓会 河合朝晴講師

平成28年度 監査 山田 泰弘（3年）

「記念講演を聴いて」

小川先生の記念講演では、日本の救急医療の歴史と現状を大変分かりやすく話して頂きました。大切なのは病気や怪我をしない社会生活を送る事が出来る人格を持つ事。そのために、親として家庭生活をしっかりする事の大切さを改めて教えていただきました。

特に心に残ったのは、「4才までは肌を離すな、9才までは手を離すな、18才までは目を離すな、22才までは心を離すな」という教えでした。厳しく叱るだけではなく、子供と誠心誠意向き合う事で、子供を理解し、親も子供と共に成長していく家庭が増える事が、とりもなおさず社会に於いても病気や怪我、その他、犯罪、トラブルを減少させていく事に繋がる最も近道であると知る事が出来ました。



平成28年度 第23代会長 就任の挨拶

平成28年度 会長 深見 和義

「会長就任のご挨拶」

愛知県保護者会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
去る5月28日の愛知県保護者会第23回定期総会におきまして、今年度の会長に就任することになりました深見と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新入生の会員の皆様、ご子息ご息女の日本体育大学へのご入学おめでとうございます。今年度は、日本体育大学創立125周年の年であります。この記念すべき年に入学されました一年生の保護者の皆様に対しまして、役員一同心よりお祝い申し上げます。また今年度は、初めて体育学部以外の学部である、児童スポーツ教育学部の学生たちを社会に送り出す年でもあります。日体大にとりまして、真価の間われる年度になることと思います。



第23代 深見会長

月日の経つのは早いもので、3年前に一年生の保護者として初めて保護者会総会に出席し、何もわからないまま1年生副会長を引き受けさせていただきました。当時は上級生役員の方々が勢おられ、会の運営のほとんどを先輩役員に任せきりだったように思います。しかし、2年生、3年生副会長になるにつれ、関係組織との交流や近隣保護者会との連絡会議等に出席していくうちに不思議と会の運営の仕方を覚えていきました。おかげさまで今では、愛知県保護者会を全国一活動が盛んな保護者会にしたいと思うようになりました。



伝統ある愛知県保護者会旗の引継ぎ

昨年度、精力的な活動で保護会を盛り立てて来られました、高野前会長の後任ということで責任の重さを感じているところでございます。至らない点もあるかとは思いますが、歴代会長の方々の功績を無にしないよう、一年間の任期を一杯頑張りたいと思っております。

今年度は、7月の「大相撲名古屋場所本学出身力士激励会」をはじめ、秋には「東海三県保護者会合同キャンパス見学会」及び「全日本大学駅伝対校選手権大会応援」を開催しますので、皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

最後に、一年間保護者会活動を盛り立ててまいりますので、会員の皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新任役員 の 挨拶

平成28年度 1年生副会長 永田 敦士

仲夏の候、愛知県保護者会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
本年4月に、次男が体育学部体育学科に入学し、皆様のお仲間に加えていただくことになりました永田です。
次男は、中学・高校とラグビー部に所属し、本学でもラグビー部でお世話になっております。
合宿所生活の様子や学校の情報、また保護者間の交流など楽しみに、今回保護者会総会に参加させていただきました。
総会では、思いがけず先輩方から役員のお話をいただき、その重責に身の引き締まる思いでいます。
しかしお引き受けした以上は、諸先輩方の足を引っ張らぬように精一杯務めさせていただき気持ちでいますので、今後ともご指導のほどよろしく願いいたします。

平成28年度 書記 酒井 由美子（1年）

本年度、書記を務めさせて頂く酒井と申します。
今春、娘が体育学部武道学科へ入学いたしました。女子高を卒業し地元で進学するとばかり思っていた娘が、まさかの東京、まさかの日体大への進学に未だ心が落ち着かない私ですが、夢に向かって進む娘を応援したいと思っております。右も左も分かりませんが、微力でもお力になれば幸いです。宜しく願い致します。

平成28年度 会計 安藤 郁美（1年）

この度、愛知県保護者会の会計をさせていただくことになりました。
娘は今春、椋山女学園高校より体育学部健康学科に進学させていただきチアリーディング部に所属しております。わからない事が多くてご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、皆様のご指導をいただきながら会のお役に立てればと思っております。宜しく願いいたします。

平成28年度 幹事 山岡 みさよ（2年）

本年度、幹事を務めさせていただきます、山岡みさよと申します。
息子は、体育学部武道学科で柔道部に所属しております。主人は2年生副会長です。
夫婦共に保護者会の協力に務めさせていただきますので、宜しく願い致します。



平成28年度 幹事 中村 貴文（1年）

犬山市在住の中村貴文です。
この度、日本体育大学愛知県保護者会の幹事を拝命致しました。
息子は、この4月から体育学部体育学科に在籍し、体操競技部で生活を始めております。私自身も本学を昭和63年3月に卒業しており、親子二代で日体大にお世話になります。子供たちは、学業や部活動に精進し、保護者は、子供たちのバックアップに最善を尽くしたいと思います。母校に少しでもご恩返しができるよう頑張ります。保護者の皆様、お世話になります。
今後とも、ご指導宜しくお願い致します。

本部保護者会 北信越東海ブロック代議員 荒川 喜峰（3年）

今年度、北信越・東海ブロック代議員を務めます、荒川喜峰です。
保護者会では、学生が競技や学問に打ち込んでいる「今」、そして、就職し社会人となっていく「未来」を子供たちの希望通りになるよう、大学や同窓会と連携し活動しています。そのパイプ役となるよう務めてまいります。よろしくお願い致します。



[懇親会閉会后有志にて](#)



平成27年度 第22代会長 退任の挨拶

平成27年度 会長 高野 徹

「退任のご挨拶」

この度、平成28年5月28日の第23回定期総会にて会長を退任いたしました高野でございます。

日頃は日本体育大学愛知県保護者会の活動に対し、ご理解ご協力いただきありがとうございます。また、新1年生の保護者の方におかれましては、記念すべき創立125周年の年にご入学おめでとうございます。

この4年間、大学では松浪健四郎理事長の世界一の体育大学を目指すとの決意のもと、語学に力を入れる方針を打ち出し、各大学や自治体との連携を進め、平成25年度に「児童スポーツ教育学部」平成26年度に「保健医療学部」が新設されました。また、インターネットの普及に伴い大学からの成績表郵送がホームページへの掲載に替わるなど様々な改革が進められました。



第22代 高野前会長

愛知県保護者会においてもいろいろありました、平成26年度から社会情勢を鑑みた保護者会本部の意向により、独自に集めていた会費を廃止することになり、活動の収縮を防ぐため、役員を減らしたり、総会の会場を公共施設に移したり、「愛知県保護者会たより」の郵送を廃止しホームページへの掲載とするなど、経費削減を進めるためご不便をおかけいたしました。また、秋に行われる「全日本大学駅伝」においては三重県保護者会との合同応援が始まり、三重県と岐阜県の保護者会との合同による「健志台キャンパスツアー」を行うなど他県との交流が始まったのもこの4年間であり、思い出深いものとなりました。

思い起こせば4年前、息子を初めて遠くに送り出すことになり、ましてや合宿所での厳しい学生生活が待っており、母校の教員採用を目指すとのこともあって、情報を少しでも聞くことができればと思い、総会に出席いたしました。思いもよらず副会長を打診され、誰もいなければと言うことでお引き受けさせていただきました。わからないながらも、やるからには一所懸命にやろうと他の役員や保護者会本部、大学関係者、愛知県同窓会等の方々からのご支援を受けながら何とか退任の日を迎えることができました。本当にありがとうございました。

今後も愛知県保護者会を、大学からの情報を伝えると共に、ご意見・ご要望を大学へ伝える場として、また保護者同士の情報交換の場としてご活用いただきたく積極的な参加をお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、あらためて関係者の皆様に感謝いたしますと共に、保護者の皆様の益々のご発展とご健勝、また子供たちの活躍と健康を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。



退任役員 の 挨拶

平成 27 年度 監査 澤田 和之

“こんにちは日体大、ありがとう日体大、そして、さようなら日体大”

いつのころからか“大学は東京、学部は法学部”と考えていた私は、高校3年生の受験のときに東京六大学を受験してももの見事に失敗した。“男たるもの一生に一度は東京へ”“東京を知らずして日本を語る勿れ”生意気盛りの18歳はそんなお題目が頭から離れず、どこかに合格するだろうと高を括って臨んだ大学受験はもの見事に物見遊山の記念受験となった。第一志望、第二志望の大学に不合格だった私に教員をしていた父とその友人が熱心に日体大の受験を勧めてくれたが法律を勉強しなかった私は頑として首を縦に振らなかった。その後浪人生活ののちに県内のローカル大学に進んだが、私の脳裏にはいつまでも東京への憧れが消えなかった。

結婚して3人の子どもに恵まれ、親となった。いずれの子どもに対しても大学は遠方に出すことに躊躇はしなかったが、長女も長男も地元志向が強く迷わず県内の大学に進んだ。ところが次男にはどういうわけか関東志向があり、大学受験に際して地元の大学と関東の大学を掛け持ち受験した。関東の大学が日体大であったわけで、合格した時には次男以上に私が有頂天になった。これで東京に行ける、私の夢を次男が叶えてくれた、大袈裟にもそう思った私はかつて私に対して託した父親の願いを次男が実現してくれたという想いもあって内心嬉しくて仕方がなかった。

そして東京。荷物をいっぱい詰め込んだワンボックスカーを駆って東名高速を一路東へ。向かった先は川崎市内の学生会館。高校3年間寮生活だったので次男はアパートを希望したが、説得して食事つきの学生会館に入寮することとした。仕送りはかなり家計を圧迫したが、学生会館には良心的な舎監夫妻がいて、よく面倒を見てくださり、生活の状況なども手紙で教えてくださった。入学した年度は正月の箱根駅伝で日体大が往路復路ともに優勝を飾り、日体大のネームバリューがさらに向上した年でもあった。

2年生からは部活の先輩の紹介でアルバイトも始め、卒業まで同じアルバイトを続けた。部活はバスケットボール部に入り4年間続けた。レギュラーとまではいかなかったが、それに次ぐクラスで定期対抗戦にフルで出場させてもらった。

私たち夫婦は4年間で都合10回ほどは東京に出かけただろうか。明治神宮の広い参道を歩き、原宿にも行った、浅草の仲見世も堪能した、スカイツリーも下からしっかり見上げた、横浜や鎌倉にも足を延ばした。おかげで憧れの東京がとても身近になった。

子どもにとっては日体大の4年間でこれからの人生においてかけがえのない財産になると思う。一流の教授陣、全国から集まる一流のアスリートと同じ時間、同じ空間を共有し、多くの薫陶や刺激を受けたことと思う。切磋琢磨した証は肉体的にも精神的にも逞しくなったことに表れている。次男は卒業後も東京に留まりたいとあって都内に就職を決めた。いずれは地元に戻ってほしいが、大都会花の東京で今暫くは揉まれるがいい、揉まれて汗して涙してもっと逞しくなって帰ってきて欲しい、そんな気持ちで見守っている。

子どもの青春の1ページに深く刻み込まれた日体大は、私たちを東京に誘ってくれた恩人でもある。初めて深沢の地を踏んだ入学式、感動的だった卒業式。こんにちは日体大、ありがとう日体大、そしてさようなら日体大。4年間本当にありがとう。



平成 27 年度 監査 鈴木 美由樹

「四年間を振り返って」

長いと思っていた四年間は今思えば、あっという間だったかなと思います。高校時代の息子は野球と勉強に明け暮れ、送迎と応援という息子の追っかけをしていた私は、息子が日体大に入学してから心にぼっかりと穴があいたような毎日を送っていました。

息子とは言えば、大学生活&部活に忙しく充実した生活を送っているようでした。四年間で私が一番印象に残る出来事はやはり「集団行動」への挑戦です。あの厳しい指導と練習に果たして息子が耐えられるかととても心配しましたが、見事やり遂げ、実演会での晴れ姿は今でも忘れることはできません。ご指導して下さった先生方、一緒に頑張った仲間たちには感謝の気持ちでいっぱいです。集団行動で身についた根性と所作がその後の就活に大変役立ったのは言うまでもありませんが、この経験は息子の人生においても宝物になった事でしょう。

「四年間の大学生活はいろいろあったけど、本当に楽しく色々な経験をさせてもらいありがとう。感謝しています。」と卒業時息子から言われ、日本体育大学を選んで本当に良かったと思いました。

私自身も大学の情報を知りたい、そして少しでも何かお役に立てないかと愛知県保護者会役員となり、その内の二年間は会計という重責を任され、時には大変な思いもしましたが、役員の皆様に助けられ何とか責務を果たせました。折にふれて役員の皆様の遠く離れる子どもたちを心配し応援する姿、親心はみんな一緒だなと感じる事ができましたし、色々な部活の話の聞けるのは楽しみでもありました。

「日本体育大学」という舞台で親子共々素敵な出会いと絆を頂いたので、これからも繋がりを大切にして日体大の大ファンとして応援していきたいと思います。今年のリオオリンピック、四年後は東京オリンピックがあり、日体大の関係者の方々の活躍を期待しております。

四年間お世話になり本当にありがとうございました。

平成 27 年度 会計 當間 美紀

「卒業式に出席して」

娘の卒業式に出席して、改めて日体大の素晴らしさを実感しました。卒業式典自体も大変素晴らしく、夢と希望に胸膨らませた卒業生達の熱い思いが、式典を見守る私達にも伝わって来ました。

そして、式典終了後にグラウンドで繰り上げられた、各部活動ごとの卒業生を送る会。それぞれに趣向を凝らした催しに、



在校生達の卒業生に対する感謝の思いが溢れていました。わが娘も応援団部の後輩たちの祝福を受け、照れくさそうな笑顔にも、充実した四年間を送れたことへの喜びと誇りが浮かんでいました。改めて、日体大にお世話になってよかったと、感じられた一日でした。





退任された役員の皆様

左から、鈴木前監査、澤田前監査、當間前会計、大見前代議員、高野前会長

編集後記

みなさま方のご協力のもと、平成28年度第23回定期総会を無事に終えることができ、85回目の愛知県保護者会たよりとして発行することができました。ほんとうにありがとうございました。また今回出席ができなかった保護者のみなさま、来年は参加してみませんか？

心よりお待ちしております。

今年度、計画されている活動内容を、「日本体育大学保護者会愛知県支部HP」より順次お知らせ致します。会報である「愛知県保護者会たより」も読者のみなさまに楽しんで頂けるように頑張ります！これからもよろしく願いいたします。
(3年生副会長 石井 勝)

日頃より、愛知県保護者会にご理解とご協力ありがとうございます。

親元を離れ東京という新天地に送り出し、長いようで短い大学生活の4年間を有意義に送れる様日々応援している中で、子供達の不安や悩み色々な相談を受ける中、より良い大学生活を送れる様先輩ご父兄の体験談や学生支援センターなどのご支援を頂きながら少しでもお役に立つような情報など発信し他の大学にはない保護者会を日々めざしております。

今年度も色々な保護者会活動を企画していきますので少しでも多くの方にご参加して頂けます様、お願いしてご挨拶とさせていただきます。

(2年生副会長 山岡 洋海)